

Free Paper For Gans Junkies

Design by ULTRAS MATSUMOTO

MATSUMOTO YAMAGA F.C.

VS V I S S E L K O B E

Sunday 02 November

THE 88th EMPEROR'S CUP 4th rounds

最高の舞台！
存分に暴れろ！！

「松本山雅と、トモニコウ。」

ヴィッセル神戸。J1では現在9位。

日本代表のエース、FW大久保嘉人を中心に、韓国代表キャプテンのMF金南一や点取り屋のFWレアンドロなど、その他にも数々の好選手を擁する。先週の大分戦での勝利で4連勝と現在絶好調。これが、今日の松本山雅の対戦相手である。

当然、これだけ強いチームとの対戦は山雅史上初めてだし、さすがに今日は難しいんじゃないかと考えるかもしれない。実際、今日はいい勝負ができれば、ぐらいに考えてる人はもしかしたら結構いるんじゃないかな？

しかし、全く臆することはないし、怯むこともない。

だって俺たちは、平塚でJ2の湘南ベルマーレと戦った結果、ここにいるのだから。

俺たちには今日、ここにいる権利がある。全国から注目を集める中、この素晴らしいスタジアムで、J1のヴィッセル神戸とぶつかり合う権利が。なかなか無いよ、こんな機会は！

俺たちはここまで辿り着いた。せっかく辿り着いたんだから、今日はこの最高の舞台を楽しもう！せっかく休みの日にわざわざ神戸まで駆け付けたんだから、みんなで思いっきりこの空気を感じて、満喫しよう！そして当然、勝負は本気でやるから楽しいもんだよね。だから、やるからには喰うつもりでやろう。

地域リーグがJ1を倒すなんて、最高でしょう！？やってやろうぜ！このチームの持つる力を見せてやろう！！俺たちが日本中を驚かせるんだ！！

今日は選手がアップに登場してから試合が終わるまで、ずっと応援を切らさずに行きます！キツイかもしれないけど、頑張っけて付いてきて欲しい。新潟で、選手たちは5日間も痛い足を引きずりながら、最初から最後まで走り続けて見せた。本当に苦しかったろうし、辛かったろう。結果はあと少し届かなかったけれど、見ている側にはガンガン熱い気持ち伝わってきた。選手たちは気持ち見せてくれたと思う。

だから、俺たちサポーターだって気持ちを見せよう！山雅へのみんなの想いを、全部ぶつけるような応援をしよう！！そして、今日こそ俺たちが吉澤山雅を勝たせてやろう！！

勝負はやってみないと分からない。最初から諦めてなければ、勝てる可能性はいつだってある。それは本当にわずかな可能性かもしれないけれど、確かに存在する。それを今日、みんなで掴もう！手繰り寄せよう！！

第88回天皇杯4回戦。ヴィッセル神戸vs松本山雅FC。相手に不足無し！日本の16強を賭けて！！さあ、行こう！！

あの日の痛手から、実は徐々に立ち直りつつある自分がいます。

悔いがない、と言えは嘘になるけど、最後の最後まで僕たちの街のクラブは、素晴らしいフットボールを見せてくれました。とりあえず選手・監督・関係者諸々の皆様方に感謝。

冒頭にも書きましたが、今の心境は意外とポジティブだったりしています。矢畑も大西もいないという「緊急事態」でも九州リーグの雄、ホンダロックとガチンコで戦うことが出来た。上に行くには「何か」が足りない、……だけど本当にあと少し、という自分たちの立ち位置とでも言えばいいのかな。それを知ることが出来たように思います。

さあ、もう一度再挑戦だ。とりあえず間が5ヶ月開く。その期間を利用して、その「何か」を探しに出かけるとしましょう。

あ、その前に天皇杯だった……。こうなったら地獄まで付き合ってやるとするか！まずは神戸だ。それにしても弾丸バスが30分そこで完売したんだって？ しかも増便も同様に！100人近い物好きが6時間もバスに揺られて、神戸まで好き好んで参戦するわけですね。自家用車やら新幹線やらヒッチハイクやら徒歩まで含めれば倍近く行っちゃううじゃなからうか。馬鹿ですね！まあ好きだけど。それにしても、「神戸は降格争いから脱出出来たからフルメンバーで来るらしいよ」とか「大久保嘉人は代表招集だから欠場かなあ」なんて会話をスポーツ新聞片手にさりりとされるのを見ると、ちょっとスゲエなんて思いませんか？何せほんの数年前まで地域2部の下の下だったクラブが、日本代表に招集されるような選手がいるクラブと真剣に戦えるというのだから凄い。しかも神戸はACL出場を企んでいるそうで。松本山雅としてはACLの前にまずJFLを頼むわ！なんて言いたいところなのですが、これは時計の針を戻せない以上、止むを得ない話。

相手はJ1です。そう、神戸は僕等が辿り着こうと願う場所に既に立っているクラブなのです。弱気の虫が頭をもたげるのも止むを得ないでしょう。

でも勝負に挑む前から白旗を上げるのは僕等の流儀ではありません。2008年の終わりはまだまだ先の話だ。神戸にとって僕等は「天皇杯制覇のための序章、第一歩」に過ぎないのかも知れない。だけど、僕等だってプライドと闘志は忘れちゃいけない。

松本山雅と、トモニコウ。

【written by sapo】